

状況に応じた避難行動をしよう

いざというときのために家族や地域で事前に確認しておこう

浸水想定区域、土砂災害警戒区域以外でも、避難情報が発令されることがあるので注意しましょう。

浸水の状況に合わせた適切な避難行動を決めましょう。

事前に裏面の地図で避難する経路を確認しておきましょう。

マップで確かめよう

浸水の深さを事前に確認しよう

避難先を事前に決めておこう

5m以上の浸水

- 2階の屋根以上が浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊、流出する危険がある

絶対に避難する

500m
歩くのにかかる時間
(平地)※目安

約6分
約8分
約10分

3~5mまでの浸水

- 2階の屋根まで浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊、流出する危険がある

時間と安全な避難経路が確保されていれば必ず避難する

0.5~3mまでの浸水

- 2階の床下まで浸水
- 1階部分が浸水
- 強い水流の中を歩くことは危険

逃げ遅れても必ず避難する

0.5m未満の浸水

- 床下浸水
- 大人のひざ下程度
- 浸水の深さがひざ上になると、歩行は危険

むやみに移動しない

浸水しない安全な場所へ
(緊急避難場所、高台の道路、空地など)

●水平避難

- ・歩きやすい服装
- ・徒歩で避難
- ・お年寄りなどの避難に協力を
- ・事前に避難先を話し合う

指定緊急避難場所
(自主避難場所)

参考ページ
避難するときは、落ち付いて行動しよう
詳しくは、紙面右下で確認しよう。

2階以上、または危険のない近くの高い建物へ

●垂直避難

- ・一階建ての建物にお住まいの方やお年寄りの方は事前にご近所の2階以上ある家に緊急時には避難できるように話をしましょう

参考ページ
日頃から水害にそなえよう
詳しくは、紙面左下で確認しよう。

むやみな移動はかえって危険、その場にとどまり安全確保

●屋内待避

- ・時間帯や外の状況で判断
- ・夜間で見界が悪い
- ・自宅の周辺がすでに増水
- ・雨足がとて強いなど
- ・屋外に出るとさらに危険な場合

事前に決めておいた避難先へ適切に避難しよう

緊急避難の決定は、さまざまな情報から判断しましょう。呼びかけ避難情報には速やかに従いましょう。

早めに緊急避難をしましょう。海岸・河川・水路などには絶対に近づかないようにしましょう。

情報をもとに緊急避難の判断をしよう

いのちを守る緊急避難をする

緊急避難のあとで

気象庁からの気象情報 (注意報・警報)

大雨・洪水注意報

大雨注意報: 1時間雨量 30mm
対象となる災害: 浸水災害、土砂災害など

洪水注意報: 1時間雨量 30mm
対象となる災害: 河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害

大雨・洪水警報

大雨警報: 平地地: 1時間雨量 50mm (浸水害)
平地地以外: 1時間雨量 60mm
対象となる災害: 重大な浸水災害、土砂災害など

洪水警報: 平地地: 1時間雨量 50mm
平地地以外: 1時間雨量 60mm
対象となる災害: 河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表します。該当する地域では、災害発生のおそれ極めて高い状況です。

雨の降り方と周囲の状況

強い雨 1時間に 20~30mm 傘をさしていてもぬれる。車のワイパーを速くしても見づらい。	激しい雨 1時間に 30~50mm 道路が川のようになる。歩くのは危険です。	非常に激しい雨 1時間に 50~80mm 傘はまったく役に立たなくなる。マンホールから水がふき出す。水がふきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。[経験したことのない大雨]	猛烈な雨 1時間に 80mm~
--	--	--	--------------------

国土交通省からの河川の水位状況と注意・警戒情報

平常の水位 防水期待機水位 氾濫注意水位 避難判断水位 氾濫危険水位 氾濫

水位はインターネット・ライブカメラなどで確認し、河川には絶対に近づかないようにしましょう。大変危険です。

防府市からの呼びかけ避難情報

避難準備・高齢者等避難開始

お年寄りや体の不自由な方、小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方は避難してください。

避難勧告

速やかに避難を開始してください。外が危険な場合は、屋内の高いところに避難してください。

避難指示 (緊急)

緊急に避難してください。外が危険な場合は、屋内の高いところに緊急に避難してください。

日頃から水災害に備えよう

自宅の備えと街なかの注意箇所を確認しましょう

水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家のまわりの点検や整備を行いましょう。

さまざまな手段で住民のみなさんに気象・防災情報が伝えられます。緊急時に備え、日頃から情報収集に向けた準備をしておきましょう。

自宅や周辺の確認

外壁

- ☐ モルタルの壁に亀裂はありませんか

ベランダ

- ☐ 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

屋根・雨どい

- ☐ 不安定なアンテナはありませんか
- ☐ トタンがめくれていますか
- ☐ 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
- ☐ 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていますか

板塀

- ☐ 板塀に腐食や浮きはありますか
- ☐ 板塀に支柱はありますか

その他

- ☐ ガスボンベは固定されていますか
- ☐ 商店などでは看板のくらつきはありませんか
- ☐ ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- ☐ 庭木には剪入木をしていますか
- ☐ 窓ガラスが飛散しないよう対策をしていますか

排水溝

- ☐ 側溝などにゴミや土砂はありませんか

ブロック

- ☐ 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

窓

- ☐ 窓枠のたつきはありませんか
- ☐ 雨戸にたつきはありませんか

気象情報

- 報道 (テレビ・ラジオ)
- FMわっしょい 77.3MHz
- 防府市防災気象情報システム
- 防災行政無線
- 防府市メールサービス / 緊急通報メール
- 緊急告知防災ラジオ
- 防府市ホームページ
- 電話・ファックス
- 山口ケーブルテレビ 12ch
- 緊急通報 Web119 システム
- 広報 / 広報車

テレビによる伝達イメージ

防災行政無線 / 広報車伝達イメージ

緊急通報メール伝達イメージ

身近なもので浸水対策

身近な材料を使って、浸水を防ぐことが出来ます。日頃から、浸水の備えをお願いします。

水を入れた袋 + 段ボール箱

長めの板 + 土のう

アンダーパスに注意しよう

アンダーパスとは、交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことをいいます。地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。大雨、洪水時には自動車での侵入はやめましょう。

いもしも、佐波川が氾濫したら...

写真提供元: 国土交通省 山口河川国道事務所

佐波川では1951年(昭和26年)7月に堤防17か所が決壊し、浸水家屋3,397戸に及んだ洪水がありました。

各種防災マップ・防災リーフレット作成状況

防災マップ (ハザードマップ) 高潮編	防災マップ (ハザードマップ) 棚川・馬刀川洪水編	防災マップ (ハザードマップ) 土砂災害編	防災マップ (ハザードマップ) 地震編	防災マップ (ハザードマップ) 津波編	防災市 防災リーフレット
---------------------	---------------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	--------------

避難するときは、落ち着いて行動しよう

避難の前に確認しましょう

いざというときのために、日頃から最小限の非常持出品を用意し、リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しましょう。併せて、避難時の注意事項も確認しておきましょう。

非常持出品

食料・飲料水

- ☐ 飲料水 (500ml ペットボトル程度)
- ☐ 乾パン・クラッカー・缶詰など、火を通さないでもたえられるもの

救急・安全関係

- ☐ ヘルメット (防災ずきん)
- ☐ 救急医薬品 (包帯、ガーゼ、絆創膏、傷薬)
- ☐ 健康保険証
- ☐ 常備薬 (常備薬、お薬手帳など)
- ☐ 免許証
- ☐ ライフジャケット

貴重品

- ☐ 財布 (現金)
- ☐ 預貯金通帳、印鑑
- ☐ 健康保険証
- ☐ クレジットカード類
- ☐ 免許証
- ☐ 権利証書

日用品

- ☐ 筆記用具
- ☐ テッシュペーパー
- ☐ ライター
- ☐ ポリ袋 (ビニール袋)
- ☐ ナイフ、缶切り
- ☐ 携帯電話、スマートフォン
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 電池

衣類など

- ☐ 下着・上着
- ☐ 手袋・軍手
- ☐ タオル
- ☐ 長靴
- ☐ 毛布
- ☐ スリッパ

その他

- ☐ 洗面用具 (歯ブラシ、石けん)
- ☐ ほ乳びん
- ☐ 紙おむつ
- ☐ メガネ

避難時の注意事項

動きやすい服装 2人以上で避難を

持出品は最小限に。動きやすい服装で。運動靴をはきましょう。

安全な避難経路の確認を

事前に避難経路を確認しておき、河川やがけの近くなどの危険なところを避けるようにしましょう。

避難する前に

避難時には火元を点検しましょう。電気のブレーカーを切り、戸締りをしましょう。

車の移動は控え 徒歩で避難を

車での移動は避けましょう。※マラレーに水が入り電気系統が故障すると動かなくなります。

避難の時は足元に注意を

足元に注意。浸水している場所を歩くときには、棒などでマンホールや側溝に注意しましょう。

深さに注意を

浸水時は50cmの深さになると歩いて避難ができなくなります。くるぶし程度の浸水でも、流れが激しい場合は歩行せず高いところで救援を待ちましょう。